



山行報告

◆ 「労山の森」 下草刈り



山 行 日：10月19日（日）

参 加 者：澤田（律） 藤本

行 動 記 録：阪急御影駅 9:20 集合 労山の森で下草刈り 10:00～12:00



もっと感謝を…

藤本

兵庫労山から会の方に草刈り作業依頼があり、連絡を受けて予定を見たら、ポッカリとその日だけ予定が空いていたので、運動不足解消のためすぐに参加希望を表明しました。

最近、毎朝晩のストレッチはもちろん定期的に体を動かすことが習慣になり毎週どこかの山に出かけている。4月に高御位山遊会の「初めての山歩き教室」に参加して以来、山の話とか実技で山登りをするようになったことがきっかけになったのだと思う。

今日の作業は兵庫労山が地元住吉台自治会と兵庫県損害保険代理店業協会との共同で安全と継続をモットーに取り組んでいる森づくりの活動です。これまで植樹を4回行い、現在の活動は年2回の下草刈りが主たる内容になっていて、毎回50人前後の参加者があるそうです。

今回も各団体から47名の参加があり、みんなで植樹された若木のまわりの下草刈りを行いました。



集合場所の阪急御影駅の北口に集合時間前に着いたら誰もいない。ちょっと早かったかなと思っていたら、集合場所は南口だったようです。澤田さんに見つけていただき無事皆さんと合流出来ました。

朝は冷え込んでいて寒いくらいでしたが、草刈りの開始時間には太陽が照りつけ、じっとしていても汗ばむ陽気です。

1時間も作業をすると額から汗も流れてくるし、腰は痛いし、大昔の稲刈りを思い出してしまいました。これは登山よりキツイわ。でも少しだけ綺麗になったので気分は良いです。

いつも登山道を歩いていると綺麗に整備されているところが多い。「誰かが草刈りをしたり階段を作ったりしてくれているのだらうなあ」と感謝しながら歩いている。今日一寸だけそういう作業をしてみて、もっと感謝しなければいけないなと考えながら帰りました。

◆ 国見山窯焼きピザを楽しむ(女性委員会)



山 行 日：10月11日（土）

参 加 者：L尾越 SL三木(悦) 阿江 貝塚(陽) 砂川(美) 時井 村上

行 動 記 録：国見の森交流館集合(9:00 着)9:15 発～国見山山頂(10:20 着)10:25 発～山頂駅
(モノレール)10:40 発～山麓駅(11:00 着)～調理室ピザ焼き(11:00～14:10)～
比地の滝(14:20 着)15:00 発～国見の森交流館解散(15:10)



国見山とピザ体験

阿江

今日は女性委員会の国見山実粟50名山の山行ですが、国見の森で窯焼きピザを楽しむとありピザに誘われて参加です。車3台で現地集合です。天気も良く私達は中国道加西インターから途中加西パーキングで休憩し、山崎インターを出てから国見山への道がわからず行き過ぎ、ガソリンスタンドで親切に教えてもらい集合時間までに国見の森公園に着きました。加古川車と高砂車はすでに到着していました。

ストレッチを元気な声で時井さんの指導のもと済ませ、国見の森・交流館を出発。すぐに獣よけ柵を開閉し山頂展望台まで1.8kmです。急斜面の森林帯を進むとどんぐりが沢山落ちていて、どんぐりの頭だけ手芸用にと少し拾いました。さらに登るとモノレールの軌道に出ました。山頂近くまで丸太の階段を登ります。山頂展望台に着くと山崎の街並みが素晴らしい展望でしたが、休憩もそこそこに国見山(465m)標識前で写真におさまり、モノレールの乗車の時間に間に合うように出発しました。

モノレールの山頂駅からバリアフリーの通路も展望休憩所まで車椅子で展望できるよう整備された道でした。ススキを見ながら広い道を下ると広い芝生広場があり、木で作ったおもちゃ、輪投げ、すべり台があり、子供連れの方達もおり親子で楽しめる広場の山上駅に到着しました。モノレールは2輦で前の車輛に高御位山遊会のメンバーが乗車して貸し



切りみたいでした。急勾配のモノレールはゆっくりと走るので景色を堪能でき20分も乗れてルンルン気分でした。11時過ぎから今日の楽しみのピザ作りです。リーダーが慣れた手つきでピザの指導をしてもらい、みんなでピザ5枚30cm(トマトピザ・じゃがいもピザ・リンゴピザ)を楽しく作りました。職員の方達にお世話になり、窯も薪で温めて頂き、何時でも焼ける状態でした。本格的なピザやサラダなどで和気あいあいと作り、とても美味しく満腹になり楽しいひと時でした。

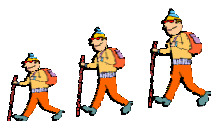
ピザ体験の後は滝見学です。駐車場から10分で比地の滝に着き、集合写真を撮りました。帰り道、銀杏も一杯落ちていました。お腹いっぱいだったので滝見学は、森林浴に良い散歩になりました。

誰もが楽しく自然とふれあい、自然の大切さを学ぶことのできる素晴らしい公園でした。モノレールに乗ると特典付きで実粟の名湯の半額券ももらいましたが次回の利用にして、15時前に解散しました。

私達は山崎インターから、案山子で有名な安富で休憩しました。人間にそっくりで上手く出来た案山子にびっくりして帰路に就きました。

今日は、旅行気分と山行、美味しいピザで充実した1日でした。ありがとうございました。

◆三草山&御嶽山清水寺



山 行 日：10月12日(日)

参 加 者：La 西口 SLa 石田 阿江 井上 内海 狩集 木村 塩津 峯山 宮崎

Lb 村上 SLb 中嶋 香川 北口 清水 田中(武) 田羅間(易) 時井 平井 藤本 増田

行 動 記 録：三草登山口(9:05 着)9:25 発～ベンチ(9:55 着)10:00 発～三草山山頂(11:00 着)

11:40 発～中間標識(12:15 着)12:20 発～三草登山口(12:50 着)一車で移動

清水寺登山口(13:20 着)13:25 発～清水寺(14:25 着)14:50 発～登山口(15:30 着)



三草山&御嶽山清水寺山行に参加して

平井

大型で非常に勢力の強い台風19号は、これから沖縄を通過して九州に上陸する気配・・・。
今日はまだ大丈夫と山行を決行しました。集合場所には、21人の会員が集まりました。
最初に登る三草山は、標高423.9mで、「清水東条湖県立自然公園」の中にあり、

源平古戦場です。三草、鹿野、畑の3コースの登山道があつて、今回は三草コースから登ります。

木洩れ陽を浴びて、時折涼やかな風に吹かれての登山です。親子連れや友人同士など、市民の方々がこの山を楽しんでおられました。

昼食を済ませて、登って来た道を下り、車移動で清水寺登山口へ向かいました。御嶽山清水寺は、標高522mで、西国二十五番札所でもあります。登山口からの上りは、木製の階段が続き、ゴロゴロ石の道が多かった。

午前中に一山制覇後に続く登山は初心者の方



私には少々きつい道のりでした。

境内には、色づき始めた紅葉や十月桜の花が咲いていて、心和む一時でした。下山した駐車場で一応解散したものの、希望者は近くに

あるジェラートの店で冷たいソフトクリームを頬張りました。ここでは、誰もが今日一番の笑顔になりました。

登山の無事終了を感謝しつつ、2度目の解散をして、それぞれ家路に就きました。楽しい一日を過ごせたのは、お世話になったリーダーをはじめ皆様のお陰です。本当にありがとうございました。

◆高島トレイル・三国山、赤坂山、寒風山、大谷山を縦走



山 行 日：10月18日(土)～19日(日)

参 加 者：L 砂川(延) SL 山本(正) 石田 塩津 木村 西口 待場

行 動 記 録：

18日：JRマキノ駅9:40～マキノ町石庭登山口10:00～尾根に出た所(11:00 着・

休憩)11:10 発～栗柄谷分岐11:45～大谷眺望コース(750m)(12:10 着・休憩)

12:15 発～大谷山頂上(12:35 着・昼食)13:00 発～寒風山(13:50 着・休憩)
14:10 発～下山口 14:40～赤坂山分岐下山口 15:00～沢付近(15:35 着・休憩)
15:40 発～東屋(15:45 着・休憩)15:55 発～分岐 16:30～白谷温泉ペンション
・カッコーの巣(17:00 着)

19日: ペンション・カッコーの巣8:00 発ー降車(8:15 着)8:20 発～黒河峠(9:00 着)
9:10 発～展望 9:40～三国山(10:20 着)10:30 発～明王の禿(10:45 着・休憩)
11:10 発～赤坂山山頂(11:35 着・昼食)12:10 発～赤坂歩道(13:05 着)13:10 発～
下山口(14:00 着)～ペンション・カッコーの巣(14:20 着)



ペンションの庭で小鳥と戯れる

山本

■ JR明石駅で参加者7名が揃い、一路琵琶湖の北西端まで3時間近くの乗車だ。土曜日の朝で少しは乗客も少なめと思ったが結構混雑している。京都を過ぎ山科から湖西線に入ると乗客もかなり減るが、電車は新快速が途中から各駅停車になり、しかも特急の通過待ちもあって、のんびりとしたものである。我々が日常利用する山陽本線は新快速や、快速の便数も多く便利である。しかし此方に来るとローカル色豊で、まさにゆっくりリズム、旅愁誘う雰囲気漂い、都会の喧噪から解き放されて旅行気分になれる。

そうこう思い、喋りながら初めて降り立つマキノ駅。この駅はかつてマキノ高原スキー場として賑わっていて、マキノがそのまま町名になったカタカナの珍しい駅、又、県道を南北2.4kmに亘り直線の「メタセコイア並木」(*下記注)があり、中には高さ100mを超す大木も含め総数500本有ると言う雄大な並木は「新・日本の街路樹百景」として選定され観光客に人気のスポットだそうだ。晩秋に色づくときに見ごたえある景観との事。

行きたいと思っていたなかなか行けなかった高島トレイル、雑事も何とか片付けて今回参加できた。駅には宿泊先の「ペンション・カッコーの巣」オーナーが迎えに来てくれていて登山口までの送迎付き。今日の登山は石庭より大谷山へのコースで、村の中を歩いていくと道が数ヶ所分岐しており、地形図では少し判りづらい。しかしウロウロしている私達を見て、村の人があっちあっちと手招きして教えてくれる。ここでも都会では薄れた情緒を感じさせてくれる。登山口は獣除けのフェンスの一部にある扉の向こう側、入り口で記念写真を撮ってから登頂開始。地形図で見ると等高線の密度は細かく急登を覚悟していたが、九十九折りの道が急登を感じさせず苦なく登っていける。この道は滋賀と福井県を結ぶ古くからあった道らしく登りやすく造ってあるようだ。

程なく杉林を抜け広葉樹の樹林帯の中に入ると、明るい空と爽やかな風が心地よく体に沁みる、分岐から眺望ルートをとって絶景ポイントに到着。メタセコイア並木・琵琶湖も一望できる、少し登って大谷山に到着、ここまで来ると少しはアップダウンあるものの尾根伝いに草原を歩くだけで、以前行った四国の剣山から三嶺への草原縦走コースに似ていて私の好きなコースレイアウトだ、緩やかな起伏を越し広い台地に着いた処が2座目の寒風山だ。琵琶湖を見下ろしながら至福のコーヒータ임。この辺りから他の登山者も頻繁に行交うが、多くが熊除けの鈴を鳴らし賑やかである。



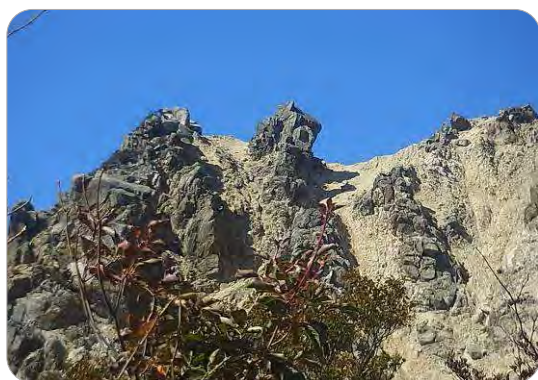
幸い熊には遭遇しなかったが、後刻ペンションで聞くと、熊さんはよく出てきて困っているとのこと。寒風山を後にして、明日に上る赤坂山を目前にして「栗柄越」より下山に着く。少し時間を要したが皆さん健脚、明るい中にペンションに到着する。

オーナーがペンションの庭先でヤマガラが手乗りしてくるからと、ひまわりの種を持たせてくれる。掌にそれを載せて待っていると、素早く掌に乗って実を取り、枝の上で皮をむき食べている。しばし小鳥と戯れた後、楽しい夕食を戴き就寝とした。

下山した場所は有刺鉄線の柵内だった

■今日は黒河峠より三国山、赤坂山を目指す5時間のコースである。しかしオーナーの好意で黒河峠手前まで車で送ってもらうことに、内心期待していたが有り難い。これで1時間は短縮できる。林道を車の行ける限度まで送ってもらい峠に到着。峠は駐車できる広場になっていて、トイレもある。高度は既に500m超で後は楽ちん行程と想定できる。

岩場が少なく、六甲山と同じ花崗岩が風化した真砂土は滑りやすいが、適度に草木が生えて歩きやすい。霞んだ伊吹山が左手、後方と場所を変えながら見守ってくれる。三国峠は少しコースより北に入って苔生す灌木の間を縫って登りたどり着いた。ここが越前・若狭・近江を跨ぐ、今回の最高峰であるが残念ながら眺望は良くない。休憩後來た道に戻り元のコースをさらに進むと、目の前に岩場の険しいピークが現れる「明王の禿」である。



岩場の少ない一帯にあっては珍しく、その形も様々で、あれは鳥だ、いや岩だと勝手な事を言いながら頂上に到着、岩場といっても今にも崩れそうな岩ばかり。最後で4座目となる赤坂山は少し下ってから登頂だ。相変わらずの真砂土の道で、柔らかい土壌は雨が降って流れた処がアリ溝のように掘れている。

8月に広島で発生した土石流もこの土だったのではないかとふと思う。着いた赤坂山は丁度昼時で人は一杯、老若男女30人程がてんでに食事をしたり、写真を撮ったりしていて賑やかだ。今回の山行ではここが一番人気のピークだと伺える。

琵琶湖を見下ろす展望、霞んでいるが日本海も見えて360度の展望、見えないが方位盤には白山迄載っている。紅葉にはまだ少し早い、周囲のススキは穂が波打ち、それが太陽の光でキラキラと輝いて怪獣の背中のように見える。一行もペンションで作ってもらった弁当を食べる。400円の弁当にしては豪華だ。食後はペンションを目指し下るのみ、しかし人はどんどん登ってくる。しかも子供連れが多い。季節・気候良しで当に登山適期であろう。ススキに囲まれた道を下って、昨日と同じ栗柄越より下山に入る。今日のルートはペンションへの最短コースを取るが、下山した場所の扉はしっかりと針金で縛ってあり、しかも有刺鉄線だ。運よく一箇所有刺鉄線が外せる処があつてどうにか脱出、今回一番のアクシデント、これからの山行装備にはニッパーが必要だと冗談がでる。

今回の高島トレイル、縦走コース自体は歩きやすく、景色もよく快適であつたが、縦走路に至るまでの登山道は標識が古く、道の整備も悪かった。今後シリーズとして高島トレイルを立案する場合は、そのアプローチも良く調査してから計画を立てる必要を感じた。

*注1945年、中国の揚子江支流で発見され「生きている化石」として有名になった。針葉樹としては珍しい落葉樹で和名は「アケボノスギ」。

◆霞沢岳(秋の峠径を辿って)



山 行 日：10月23日(木・夜発)～26日(日)

参 加 者：L佐々木 SL須増 野村

行 動 記 録

10月23日(木)		
場 所	着	発
夜高砂出発 到着後車中泊		
10月24日(金)		
島々宿(安曇支所)	2:30	5:50
登山口駐車場	6:00	6:20
砂防ダム	7:07	7:17
二俣(遭難の碑)	8:05	8:10
離れ岩	9:47	9:50
岩魚留め小屋	10:50	11:41
峠沢上り口	13:24	13:33
ちから水	13:55	14:05
徳本峠小屋	15:15	
10月25日(土)		
徳本峠小屋		5:20
ジャンクションピーク	6:30	6:42
K1ピーク	9:40	9:50
霞沢岳	10:41	10:54
K1ピーク	11:38	12:16
ジャンクションピーク	14:55	15:00
徳本峠小屋	15:50	16:13
水場	(10分休憩)	
明神(下山連絡)	17:50	
嘉門次小屋	18:07	
10月26日(日)		
嘉門次小屋		7:30
河童橋	8:00	9:00
バスターミナル	9:10	9:30
安曇支所	10:32	
登山口駐車場	10:45	11:00
宝殿駅(北)	20:20	

※秋のアルプス山行は初めての体験、飲み水や防寒着やら必要以上の装備を詰め込み過ぎた為にザックは16kg。

1日目の歩行距離16km・標高差1400mはきつかった！

ようやく3時15分に徳本峠小屋に到着！ 長かった～



霞沢岳(秋の峠径を辿って)

野村

■ 1日目

前日の19時30分、宝殿駅を出発。高速で渋滞があり予定より2時間ほど遅い2時30分に「島々宿」に到着。テント張りを中止して車中で仮眠後6時20分に出発し、二俣までは島々谷川に沿って林道を歩く。岩魚留小屋を目指し少しずつ高度を上げていくと、だんだんと紅葉が鮮やかになり沢山の支流が島々南沢に流れ込んでいるマイナスイオンたっぷりの沢沿いを楽しみながら、10時50分「岩魚留小屋」に到着。秋晴の風も無くぽかぽかの日向ぼっこで昼食休憩を楽しんだ後、さらに高度を上げながら九十九折の急坂を少し登り14時「ちから水」の水場に到着、そこには冷たくて美味しい水が待っていた。

給水をしてから、本格的な上り坂(長いジグザグ道)から島々谷の紅葉を見下ろしながら九十九折の登山道を何回も何回もくねくねと曲がりながら高度を上げていく。キツイ。

本日の歩行距離16kmの最後一気に登る、参ったなあって感じ。「ちから水」から「徳本峠小屋」を目指して1時間10分、やっと登り切る。



苦しい坂道を登り切ると、なんと眺望の素晴らしいこと！

西穂～奥穂の稜線がくっきり！雲ひとつない晴天！絶景！ 穂高が大きい・近い！

徳本峠からの穂高連峰に感激です。徳本峠小屋で21時に就寝、翌日は、5時に霞沢岳を目指します。

■ 2 日目

朝4時半起床、峠なので全く周りの光が無い闇夜、キャンプ地から見上げると満天の星空、こんなに大きい明るい星の夜空を見たのは初めてでした。

霞沢岳まではコースタイムは片道4時間（ピストンで9時間の計画です）

5時20分、ヘッドライトを点けて日の出のジャンクションピークを目指し出発。

東の空が赤くなってきて遠くに八ヶ岳連峰、北側には朝焼けの穂高連峰が姿を現す。

今日も快晴、昨日は夕焼けの雄大な穂高、今朝は朝焼けの穂高連峰を見る事が出来て大満足。



ジャンクションを過ぎて下って行くと木々の切れ間から南の方向に噴煙を上げる「御嶽山」と白いコロナ観測所が見える「乗鞍岳」の姿が現れる。八ヶ岳・南アルプス・中央アルプスも澄んだ秋空ですぐ近くに感じる。

ジャンクションピークより、アップダウンを繰り返し「K1ピーク」が見えてくる。K1までは結構な斜度があり二日目で疲れた足が思った様に上がらない、ペースダウン。

ようやく9時40分にK1ピークに到着、なんと素晴らしい眺望！梓川・穂高連峰、真横にはどっしりと構える「笠ヶ岳」そして右斜めには「焼岳」と「白山連峰」まで見渡せる大パノラマである。

朝一番に徳本峠小屋を出発したのに、我々のペースが遅いのか、数人が後から来て「きれい、素晴らしい、最高ね・・・！」互いに連発しながら追い越して行った。

ここから下ってK2ピークに向かい「焼岳」を見下ろしながらしばらく歩く。

10時、標高2646m「霞沢岳」に到着、御嶽山～乗鞍～焼岳～笠ヶ岳～穂高連峰～梓川の上流と常念山脈も見渡す絶景。

リーダー曰く「10年に1度位の好天気だ。今まで経験した中でも最高の天気恵まれた！」満足顔。

パノラマを堪能し、予定より1時間程の遅れで徳本峠を目指して出発、K1で昼食とコーヒーを楽しみ、ジャンクションピークで再び穂高を眺め、ついつい休憩時間を超過してしまった結果、徳本峠には計画時間より1時間50分遅い15時50分に到着。

※（小屋の主人に霞沢岳のピストンは遅い人で10時間と聞いていたが、朝の出発20分遅れを計算しても10時間30分は遊びすぎでした。反省しています）

急いで今夜の宿泊地の嘉門次小屋に到着予定を連絡して16時13分に明神橋に向かって下山、20分ほどヘッドライトを使用する結果になってしまったが、無事18時7分に嘉門次小屋に到着。嘉門次小屋では、囲炉裏の部屋で風味豊かな名物「岩魚骨酒」を楽しんで21時に就寝。

※名物 岩魚の骨酒 3日ほど囲炉裏の煙で燻した岩魚（1尾）に燻した清酒・嘉門次（2合）を注ぎ、すっきりとした清酒に滲みわたる岩魚の深い風味を楽しむお酒。

※（2杯目がさらに旨い、）2合を飲みほしてから追加で清酒・嘉門次2合を入れる。

■ 3日目

上高地から松本行のバスに乗り、車を止めていた出発点の島々（安曇支所前）に寄ってから帰路に着いた。

今回の『霞沢岳』は上高地から至近の山にもかかわらず、静かで山と語り合うような玄人好みの登山で、ツアー登山などで大挙して押し寄せる日本百名山には選ばれていない。

その為か「霞沢岳」の存在感は薄いですが、仮にそれが穂高連峰の奥穂、北穂、前穂、西穂の名称にならい“南穂高岳”になっていたら、現在の数10倍、いや数100倍の登山者を迎えているはずと言われている。高さこそ2,600メートル台で穂高連峰に一步ゆずるが、上高地から一気に高度をあげる急峻さ、頂上部の岩稜帯の中でも特に目をひく三本槍、静寂な山頂から迫りくる穂高連峰の眺めなど魅力に富んだ渋い山である。

『徳本峠』は、深田久弥が「峠に立った時、不意に現れる穂高の気高い岩峰群は、日本の山岳景観の最高のも、その不意打ちにおどろかない人はいなかった」（「日本百名山」）と書き記している。

今回、2日間で走行時間約20時間・距離約30Km強を歩いて、穂高連峰の雄大さに感動した。穂高の峰々を登頂した人にとっては、私の何倍もの感動を感じたと思います。

今度は穂高を経験して、このコースを再度登ってみたい。感動をもう一度味わいたい。

お世話になりました。又、何処かの渋い山を企画してください。体力を強化して挑戦しますので宜しくお願いします。

◆はじめてのテント泊 千町小屋



周辺

行 動 記 録

場 所	着	発
10月25日		
集合場所(別所SA)	8:20	8:25
買い物(Ac o o p)	9:50	10:00
こぶしの村キャンプ場	10:20	10:50
炭焼窯跡	11:20	
展望地	12:15	
弘法の池	12:25	12:30
千町ヶ峰山頂(昼食)	12:35	13:15
千町小屋テント場	15:00	
10月26日		
千町小屋テント場		8:40
分岐		8:50
くじら岩	9:25	
石仏、大タワ	10:10	
笠杉山山頂	10:45	11:40
千町小屋テント場(昼食)	12:15	14:15
まほろばの湯	15:30	16:30
加古川駅北	17:30	

山 行 日

：10月25日（土）～10月26日（日）

参 加 者

：L尾越 SL上田 赤木 砂川(延) 萬代 和田



はじめてのテント泊

赤木

今回の山行に申し込んだのは、衣食住を背負ってのテント泊ということで、そこに山登りの原点のようなものを感じたからです。

前からこんな山行に憧れがあったのです。重い荷を背負い厳しい自然の中に自分を置き自然の中に溶け込みたいとの思いがありました。

10月25日（土）は気象係の和田さんの連絡通り朝から晴れ渡っていた。下千町のこぶしの村

キャンプ場で受け持ちの共同装備を詰め込み、S Lの上田さんを先頭に杉林の中の沢沿いの登山道を登って行った。杉の落葉で分かりにくく登りづらいが、炭焼き窯跡を過ぎ、やがて自然林の中に入ると紅葉が目に入り疲れを忘れさせてくれる。どんどん登って行くとやがて尾根筋に出る。少し左に行った処に「弘法の池」が在るので立ち寄ったが、池と言ってもただの水溜りのようなものだった。しかし、ここはモリアオガエル生息地で有名ならしいが今は時期的に見ることはできなかった。ここからは千町ヶ峰の頂上まではすぐで、笹と低木の開けた頂上に着いた。

素晴らしい秋晴れの空の下360度の展望が広がる。奥播磨のこの頂からは、紅葉の中に段が峰や大段山、砥峰のあの斜面越しに峯山のアンテナ群が、また遠く氷ノ山などの但馬の山々がかすんでいるのを望むことができる、なかでも明日登る笠杉山が紅葉の衣装を纏った円い山容を目の前にしながら尾越さんが入れてくれた、コーヒはなんともいえなかった。

下山して出会った上千町の人から「こんな天気の良い日はほとんどない、良かったなあ、ここは但馬の風土に近いから」と喜んでくれた。

千町小屋でテントを張り食事の用意を始めようとする、砂川会長が「さあビールで乾杯」と言い出した。

砂川会長、上田さん、和田さん、尾越さん、萬代さん、私と6人で小屋の露台で宴会が始まった、道の駅で買ってきた枝豆やおはぎまで飛び出す。これがなかなか美味しくまた、尾越さんや萬代さんが頑張ってくれたキムチ鍋が出来、酒を酌み交わしながら最高の時を過ごす。だんだんと暗くなっていく山の端は漆黒になりその上に星空が覆いかぶさる。これこそ私が待ち望んでいたものだ。

酒を飲みながら山の思い出を話したり、今度行く山の話をしたり、星空だけの下で笑ったり話したり、とそのとき「シェケーン」と鋭くも少し哀調を帯びた声が響いた。鹿の鳴き声だ、たまらない。全てのものがそろった。

翌朝、10月26日(日)快調に起き上りテントはそのまま笠杉山に登り、林道から少しはいった所で宍粟市の天然記念物「岩塊流」^{がんかいりゅう}を観る。大きな岩の塊が沢筋を流れているように転がっているその岩の一面は人工的に削ったようにまっすぐ平らになっていた。

是は氷河期の遺物だそう。その中に「クジラ岩」というクジラそっくりの岩があった。

昨日と同じような晴天で今日も快適な山行が出来た。笠杉山の頂上は少し岩がむき出しになっていたが、千町ヶ峰に劣らず素晴しかった。

下山に通った林道はこの前の台風の影響かすごく荒れていて、コンクリートの下がえぐれている所が何か所あった。

テントを撤収し、小屋の後片づけをして千町小屋を後にして、「まほろばの湯」に入り疲れを取り帰路についた。

私はテント泊なので少し厳しい山行かと思っていたが、実に楽しい山行でした。天気も良かったし、紅葉も素晴しかったし、星空も鹿の鳴き声も、酒もご飯も、テントで寝たのも、ここ千町も温泉も、仲間の人達も、最高でした。

リーダーの尾越さんをはじめ皆様のお陰です。有難うございました。



◆蘇武岳植村直己の故郷の山の紅葉を愛でる



山 行 日：10月26日(日)

参 加 者：La 垣内 SLa 澤田(律) 阿江 井上 田中(美) 平井(み) 渡辺(和)

Lb 瀬尾 SLb 西口 狩集 篠原 田口(末) 田口(善) 藤本 村上

Lc 山本(正) SLc 三木(悦) 有本 田中(由) 宮崎 森下

行 動 記 録：万場天神社(9:30 着)9:40 発～万場登山口(10:00 着)～巨樹の谷夫婦カツラの木
(10:35 着)10:40 発～備前山コース合流(11:35 着)11:40 発～分岐(12:30 着)～
蘇武岳山頂(13:00 着)13:40 発～分岐(14:00 着)～大杉山山頂(14:45 着)14:50 発
万場登山口(16:00 着)



ブナの原生林に会いたくて…蘇武岳山行

宮崎

「天高く馬肥ゆる秋」今日は最高の登山日和、播但自動車道を走行中には「竹田城跡」を見上げ、神鍋では但馬ドームを横切り、楽しい車内のおしゃべりもひとまず中断し万場駐車場へ。瀬尾リーダーのストレッチで身体中に爽やかな空気を吸いこみ準備OK。そこから3グループに分かれて出発。私はCグループ。三木SLが最後でその前を歩く。目の前には目指す蘇武岳が見える。赤や黄色で山が染まっている。万場登山口から誰かが付けている熊除けのベルが鳴り始めた。垣内リーダー先頭に総勢21名。

ぬかるんだ道を歩き、せせらぎの音を聞きながら川を徒渉し巨樹の谷の住人と名づけられた夫婦カツラの樹やカツラの親分に出合ったときは感動だった。その樹の懷で一休み、まるで屋久島の縄文杉を見ているよう・・・。

自然林の中に続く木の階段、その横にはロープがはられ足元に気を付けながら登る。

私の前には19名の色とりどりのザック、そのザックが一直線に、ジグザクに動いている。

トチの木やカエデの木も大きく育ってる。その落ち葉を踏みしめながら登る、登る。私の好きなブナの林、真っ直ぐに伸びた白い木肌・紅葉・その上の真っ青な空、そんな風景は、登りが続き悲鳴をあげそうな身体を勇気づけてくれました。12時を告げる音が聞こえて



もまだ道半ば……。分岐でリーダーが「ここで昼食にしますか？それとも後40分歩いて山頂で食べますか？」もちろん全員が「山頂で食べます！」。視界が広がったところで、天高くパラグライダーが気持ち良さそうに飛んでいた。木の階段を登り終わると広々した

蘇武岳山頂に着いた。一等三角点にそっとタッチ360度の眺めは最高でした。氷ノ山・扇ノ山など登りたい山もばっちり見えました。13時過ぎでの昼食、お腹も満たされたのでそおっと寝転んでみた。頂でこんな時間が持てるなんてああ～幸せ！記念写真を撮り次に

目指すは4つのピークを越えての大杉山、エネルギーも補給して元気も出たはずなのにアップダウンはきつかった！ 大杉山山頂では神鍋の山々や町、但馬ドームなど一望できた。神鍋高原を見守る巨木の杉に見送られ9合目から尾根歩きで急斜面を下る下る・・・。

樹に矢印・○印が付いていて道に迷う事はないが下りが苦手な私は慎重に歩くのでどうしても前の人との間隔が開いてしまう。2合目まで下ると見覚えある分岐点に着いた。上る時に渡った川は脚の疲れもあり渡るのに慎重になる。最後まで気を抜くことは無かった山行だったが天気にも恵まれ怪我も無く下山できて皆様に感謝です。垣内リーダーはじめ、参加者の皆様ありがとうございました。

◆山の辺の道 日本最古の道を歩き秋と歴史を楽しむ



山 行 日：11月8日(土)

参 加 者：L 垣内 SL 中嶋 阿江 金島 清水 田中(重) 田中(由) 時井 長谷川(孝) 峯山 山本(清)

行 動 記 録：近鉄桜井駅(8:33 着)9:12 発～大神神社(10:40 着)11:05 発～桧原神社(11:55 着)12:35 発～景行天皇陵(13:25 着)13:30 発～黒塚古墳展示館(14:05 着)14:15 発～J R柳本駅(14:25 着)14:31 発



日本最古の道へ

峯山

歴史に鈍感な私が「山の辺の道」に参加したのは、響きがやさしかった事、運動靴でOK！な事でした。

近鉄桜井駅前で、ベテランボランティアガイドの豊村史郎さんが出迎えてくれました。

早速歩き始め、お弁当を調達する人はスーパーおおくわに立ち寄り、初瀬川の河原でストレッチ、仏教伝来之地碑を見て、山裾を縫うように伸びる細い道に入って行きました。



古い民家が並び歴史的景観を守り続けている地区なのでしょうね。

素麺の原型は奈良時代に中国から伝えられ、三輪そうめんになった事など、その都度ガイドさんの説明を聞きながら金屋の石仏、平等寺へと進み、三輪山を御神体とする大神神社おおみわじんは我が国最古の神社で、この11月17日には天皇陛下がお越しになるそうです。

展望台では、千年持ちこたえる鉄製の大鳥居を眺めながら、「ここは日本酒の発祥の地です」と難しい神様の名前やら言葉が次々と並ぶ説明がありましたが、覚えられませんでした。

桧原神社でお弁当を食べて、ミカンや柿などの果樹園や畑の近くでは無人の販売所もありました。楽しく歩きながら相撲発祥の地と伝えられている相撲神社へ。

景行天皇陵を通り抜ける頃にはすごいところだと思いました。お天気にも恵まれ参加して良かったなあと改めて思いました。

最後に、帰りの時間に間に合うように、J R柳本駅まで見送って下さったガイドの豊村さんに感謝してお別れしました。